

# パンタナール通信

一般社団法人 南北米福地開発協会 会報

2021年11月1日 218号

世界平和地球村の建設と自然環境の保護



ヤシの木ばかりの原野で開墾体験（第17回青年奉仕隊）



パラグアイ川で釣り体験



養殖池でパクーの追い込み作業



タロイモの収穫

## レダは青年教育に絶好の地！

レダプロジェクトが青年教育に果たしてきたもの

10月9日（土）東京渋谷の会場で開かれた当協会の定例集会で、日本に一時帰国中の佐野道准氏が、レダプロジェクトの発足以来22年間の諸活動を、青年教育の場としての観点からまとめ、報告しました。タイトルは「神様を想い、人類を想う青年をたくさん輩出しよう」です。

レダプロジェクトの出発点にあるのが、文鮮明先生夫妻による「ジャルジン第一宣言(1965.4.3)」です。それは、神・人・万物への真の愛を根底に、「(他者の)ために生きる」を実践することによって、病める地球環境と、病める人類社会を救い、理想世界を実現するためのビジョンを明快に宣言したもので、レダの理念となっています。

22年間のレダ開拓史では一貫して、日本の国際協力青年奉仕隊、米国際諸団体の青年チーム、パラグアイの青年研修グループ等が、毎年のように地方の村や町に赴き、学校舎の建設、施設の修繕と塗装、植樹、清掃、文化およびスポーツ交流などに全力投入してきました。それは、若き日に国境を越え、言語や文化の壁に挑み、しばしば自己のそれまでの限界を超えながら、新たな世界、新たな価値観、新たな可能性を持つ自己と出遭う旅であったとも言えます。

レダ基地での体験学習(開墾・農業・養殖・釣りなど)を通し、若者は先駆者の足跡を辿り、未来を考えました。土に触れ、泥沼のタロイモ田に入り、養殖池に入って魚を追う、斧を握って手にマメをつくる。こうした学習は挑戦的であると共に、驚きや感動に彩られた喜びの経験でもあり、人格を育む栄養素となってきました。また美しくも激しい大自然の真つ只中、獣、鳥、爬虫類をはじめ、様々な動植物との出会いを通して、創造主と出会うのです。

さて、青年たちが奉仕活動をした村や町には、清潔な校舎(二面に写真)が出現し、生徒たちは教科書や教材を手に入れました。また美しくなった公園と楽しい遊具は、大人たちが子供たちのために願ってきた長年の夢でした。これらは世界各地の支援者から寄せられた力と、青年たちの情熱と流した汗とが、掛け算となって実を結んだものです。

さらに嬉しい結実は、青年たちから向学心を刺激された子供たちの成長です。高校に進学する者が増え、まだ多くはありませんが大学に進み、さらには海外に留学して医師になった者もいます。まさに教育は未来への投資なのです。





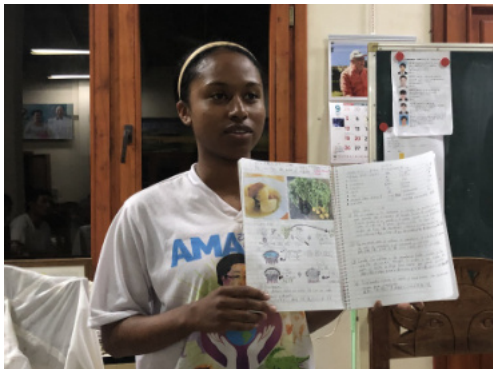
岩澤所長と青年たちがバイアネグラでパクーを販売。9月24日



パクー約400kgを積み、冷凍車がアスンシオンへ出発。10月5日



本田さんが4種の魚釣りを完了。9月22日



ヌワビンさん作、野菜のレシピ本。9月16日



パクーの親魚を選別する滝川君。9月8日



エビ養殖のために脱室素実験。9月22日



パクーの飼料を降ろす前田君。9月21日



牛の解体をする養豚チーム。9月中旬



白菜を育てる大元氏とパブロ・トーレさん。9月21日



ヌワビンさんの白菜漬物。マンゴーと長田君。9月27日



モリンガの特製ふりかけを作った大元氏。9月26日



9月には100頭の子豚が誕生しました。



エビ担当の川久保君(右)とレアンドロさんが、養殖場の排水性を改良。10月5日



チパを焼くベニータさん。9月30日



# 持続可能な福地建設をめざして(5)

## 教育は国家建設の礎

和田賢一



4 質の高い教育を  
みんなに

持続可能な開発目標（SDGs）の第4番目の目標は教育に関することです。SDGsの教育に対するゴールは「すべての人々への、包括的かつ公正な質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する」として、教育について詳細に論じています。

それを要約すると、子供に関する目標、青年に対するもの、そして社会人向けの視点、障害者や先住民などの脆弱な人々への対応など、それぞれの分野に沿って書かれています。日本の場合で言えば、幼児教育、小中学校での義務教育、高校・大学などの高等教育、そして生涯教育をめざす社会人教育、加えて家族の在り方を考える家庭教育と言い現した方がわかり易いでしょうか。

SDGsは、教育機関や教職者たちからの自国政府・自治体や関係諸機関への関わりにとどまらず、特に教育が充実している先進国に対しては、開発途上国などに国際協力を図ることを呼び掛けています。では世界の教育水準はどのようなものか、識字率を例に取って考えてみましょう。

ユニセフ（国連児童基金）の調査によると2011年から2016年における成人の識字率は世界平均で78%ですが、後発の開発途上国では63%に下がります。後発開発途上国は47か国指定されていて、うち33か国は南スーダン、ルワンダ、ニジエールなどアフリカの国々です。中でもニジエールは15%と最低の水準です。世界では読み書きできない大人が約7億8000万人いるといわれています。

ちなみにわが国の識字率は99%。私たちと縁を持っているパラグアイのそれは94%です。100%の国はリヒテンシュタイン、ノルウェー、ルクセンブルクなど8か国です。

識字率の数値を見ただけでは、教育の水準や教育の質を推し測ることはできませんが、一つの目安にはなります。教育のスタートは何と言っても識字から始まるわけですね。わが国でも昔から「読み書き、そろばん」と言われ、寺子屋から始まり、明治維新の後、国民学校を全国に創設し、義務教育に力を注いできました。そうした国家的な努力の蓄積が今日の私たちの国を支えているわけですから、ありがたいことはいまでもありません。

識字率の低さは、その国の政治の混乱、経済の低迷、劣悪な社会環境、自然災害などによってもたらされた結果です。開発途上国の識字率の向上のためには、こうした難題の解決が必須です。

そこで、SDGsは、先の後発開発途上国や小島嶼開発途上国、アフリカ諸国を対象として職業訓練、情報通信技術、工学・科学プログラムなどを先進国が支援することを訴えています。さらに高等教育の奨学金の助成、教員研修の支援など国際的な協力の推進を呼び掛けています。

私たちが教育問題を考える時、知識教育、いわゆる知育に目を奪われがちです。無論、公立校と私立校との教育水準の違い、大学入試の問題点、大都市と地方との間の教育格差の



エスペランサ村に当会が建てた校舎の贈呈式。2004年12月

の教育格差の平準化を求める声など、解決しなければならぬ課題が山積しています。それと並行して、知識教育に偏重した結果、さまざまな問題も噴出していきます。学校教育についていけない、いわゆる「落

ちこぼれ問題」、児童・生徒間の「いじめ」、それに起因する「自殺問題」など目に余る出来事が新聞・テレビ等で報じられています。これらは、いかに人を教育するかという、教育の根本問題でしょう。

その意味で、改めて道徳の重要性が注目されています。「徳育」の復活です。また、知育に傾きがちな中で、食事の作法や食品への感謝、健康を重視した食生活などを考慮する「食育」と呼ばれる分野をも含め、人格・情緒の向上を目的とする分野にも目が注がれています。



カトルセ・デ・マジョ村の新校舎(左)と旧校舎。2005年11月

さらに進んで、教育はより良き人格の形成にあるとすれば、人間性の根本である知意のバランスの取れた成長を促さなければなりません。そのために徳育をさらに推し進めていくことはもちろん、宗教教育を抜きにすることはできないでしょう。

私たち南北米福地開発協会として、このSDGsの教育分野と深い関わりは、毎年実施してきた、国際協力青年奉仕隊の活動でしょう。毎夏1回、日本から南米のパラグアイに派遣、今年で第22回を数えるまでになりました。1隊10人前後のボランティアグループ（奉仕隊）で、私たちの開拓地プエルト・レダの近隣地域にある学校を支援。具体的には校舎の建設、修繕、書籍・教材の提供、植樹、公園づくりなどを実行してきました。また、（次面につづく）



**SDGs**（三面よりつづく）それぞれの自治体と協力して、町の清掃、植樹なども展開してきました。

この奉仕活動は日本人隊員だけではなく、米国内など11か国36人の青年たちが参加したこともあり、また地元パラグアイの高校生、青年たちと共に活動も行い、今では幅の広い活動になっています。

教育という観点から見れば、SDGsの精神に最も近い活動を展開してきたのではないのでしょうか。

参加した青年たちが、日本を飛び出して海外に目を向けて、その国と世界の実情をつぶさに見ることで、自身の視野を大きく広げることができたのではないのでしょうか。

さらに、パンタナールの大自然の美しさ、時として脅威さえも感じる中で、人と自然、動植物との関わり方を学ぶことは、青年たちを一回りも二回りも心豊かな人格を形成する助けとなったことでしょう。奉仕隊はその活動の合間をぬって、神とは何か、人とはどうあるべきか、歴史はどこに流れていくか、としているのかなど、宗教・倫理の命題に時間を割いてきました。レダでの活動は人間修養の場であるのです。



第21回国際協力青年奉仕隊。レダ研修所講堂にて 7月22日

（つづく）

## 第22回ワンデイセミナーのご案内

大変長らくお待たせいたしました。コロナ禍による緊急事態宣言が解除されたことを受け、一年ぶりにパンタナール・ワンデイセミナーを左記の要領で開催いたします。講師はじめスタッフ一同、準備に力を込め、皆様の参加をお待ちしております。

感染予防策として、検温、マスクの着用、手指の消毒、三密の回避、黙食などの徹底が求められますので、ご協力をお願いいたします。また、会場の定員は半分に削減されます。参加お申し込みは早めに。

日時…令和3年11月20日（土） 10時受付、10時20分開始、16時終了予定

会場…国立オリンピック記念青少年総合センター、センター棟402室（小田急線参宮橋駅歩7分、または渋谷駅西口40番乗場よりバス、代々木五丁目下車）

参加費…2000円（昼食を含む）当日受付にて

参加を希望される方は、メールまたはファックスで、  
①氏名②連絡先③紹介者を明記の上、下記の事務局宛てお申し込みください。お問合せも同事務局へ。

共催…一般社団法人 南北米福地開発協会、NPO 地球の緑を守る会

### プログラム

●「提唱者の思想とレダ開拓の歩み」 講師…柴沼邦彦理事

●「パンタナールにおける自然林再生と森林農業」 講師…高津啓洋「NPO地球の緑を守る会」代表理事

●「レダプロジェクトの展望」…中田欣宏 代表理事  
●レポート…青年によるレダ基地での体験報告など



レダで活動する青年たち。公館前にて。8月20日

## 一般社団法人 南北米福地開発協会 事務局

〒213-0001

神奈川県川崎市高津区

溝口3-11-15

岩崎ビル4F

電話: 044-829-2821

FAX: 044-829-2820

支援金振込口座: ゆうちょ銀行

記号10280 番号61349751

一般社団法人 南北米福地開発協会

Eメール: office@asd-nsa.com

ホームページ: https://asd-nsa.com

Facebook: https://www.facebook.com/ledaproject.jp/

## 会員の皆様へ

会員の皆様には、周囲の方々にレダ・プロジェクトを紹介し、入会の案内をしていただければ幸いです。紹介用のパンフレット（印刷済み）、および入会申込書は、左記の事務局にお申しつけください。



入会申し込みは、左のQRコードから、グーグルフォームでも行えます。

パソコンでは、下記のURLにアクセスしてください。

<https://asd-nsa.com/nk/>

## レダ・プロジェクト紹介用パンフレットPDF版



紹介用パンフレットは、ネットでも入手いただけます。

スマホなどの端末で、または印刷してクリアファイルに入れてどうぞ。



<https://asd-nsa.com/sk/>